



2025年3月25日

各 位

会社名 トピー工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 石井 博美
(コード：7231 東証プライム・名証プレミア)
問合せ先 執行役員総務部長 小柳津 智毅
(TEL 03-3493-0777)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応のアップデートについて

当社は、2024年3月26日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、現状の分析・評価や取り組みの進捗状況等を踏まえ、内容をアップデートしましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては別紙をご覧ください。

以 上



資本コストや株価を 意識した経営の 実現に向けた対応 (アップデート)

2025年3月25日

TYO 7231

トピー工業株式会社

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負いません。

現状分析

2024年3月
「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を公表し、取り組みを推進

ROE

2023年度決算
減損損失の計上などにより低下

2024年度決算(想定)
政策保有株式売却益がある一方
需要の弱さで利益が伸びず横ばい

株主資本コスト(8%程度と認識)を下回る水準が継続

PBR

成長期待の減退を背景に低下

1倍割れが継続

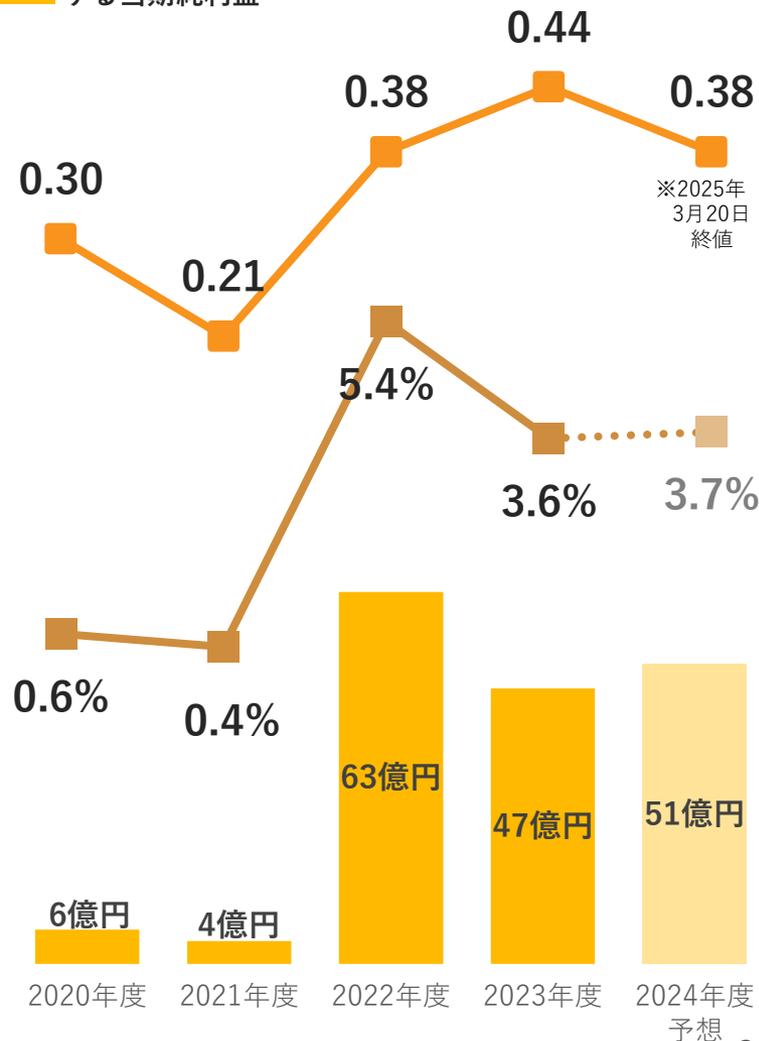
収益性・資本効率性のさらなる向上
および成長期待の醸成が急務と認識

2025年度末までを実行期間としていた
中期経営計画の見直しに着手

2025年5月に公表を予定

ROE PBR

■ 親会社株主に帰属する当期純利益



中期経営計画見直しについて

新中計のポイント

投資家との対話で得た市場の要請について認識の上、各種取り組みを検討

投資家様からのご意見

より具体的な
成長戦略を
見せて欲しい

政策保有株式の縮減
を進め、資本効率の
向上につなげるべき

株主還元の考え方は

既に取り組み中の内容

成長事業創出に向け、
経営企画部事業化推進室
の設置などの組織改正を決定
(2025年3月4日公表)

2026年3月末までに
連結純資産の10%未満までに
縮減する目標を設定し縮減を推進
(2024年11月公表)

- 安定的な配当実施を意識し、2024年度は業績下方修正後も配当予想額を据え置き
- 機動的な資本政策を推進するため自己株式の取得を実施
(2025年2月実施)

検討中の
新中計

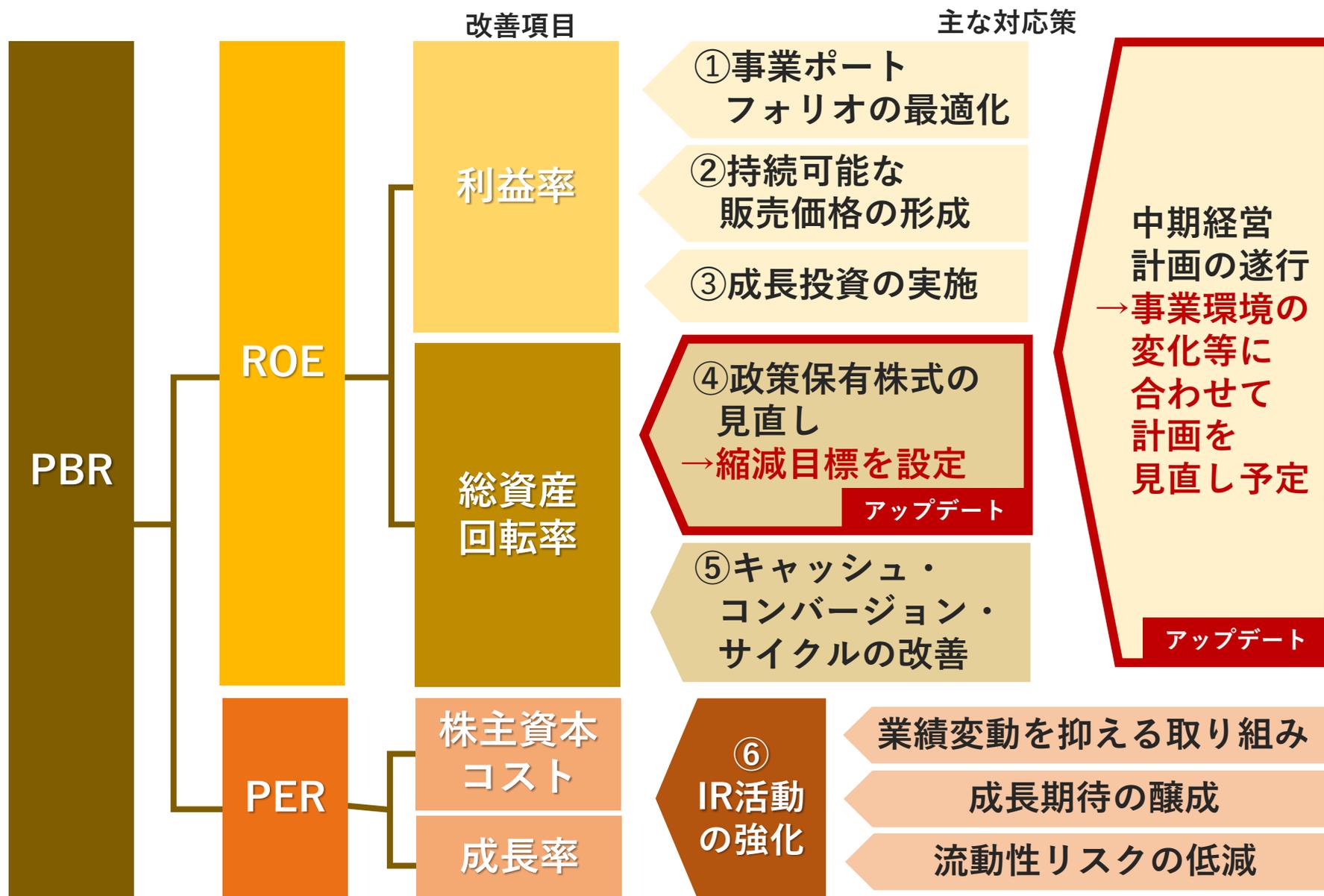
2025年5月
公表予定

対応方針のアップデート箇所と 対応の進捗状況

※現時点(中期経営計画見直し前)のものです。

内容に2024年度第2四半期決算説明資料と同内容を含みます。

対応の方針のアップデート箇所



進捗状況①：事業ポートフォリオの最適化

- 資本生産性の観点から**事業ポートフォリオの最適化**を着実に推進

発電事業の廃止



石炭の高騰等による収益性の悪化や電力市場価格の下落、脱炭素化の必要性等を踏まえ、事業廃止

ファスナー事業の再編 (メキシコ拠点事業廃止)



自動車メーカーの生産が想定より低調であった点や労務費等の固定費の上昇を踏まえ、他拠点へ生産移管

中国乗用車用スチール ホイール事業の再編



中国市場での日系カーメーカーのシェア低迷による中国生産縮小の動きに対応し、拠点を集約

今後の方針

引き続き収益性を考慮した国内外拠点の最適化を検討していく

進捗状況②：持続可能な販売価格の形成

- 事業環境の変化の影響を受けにくい経営基盤を構築するため、合理化投資の実施等によるコストダウンを推進する一方、持続可能な販売価格の形成にも注力
- コストの適正な価格反映に関する社会的気運の高まりや、当社製品の価値訴求などにより、販売価格の見直しについて顧客のご理解を頂きつつある。今後も、引き続き粘り強く交渉を継続していく。

～2023年度

原材料のほか、エネルギー、副資材、為替等のコスト上昇分をタイムリーに販売価格へ反映させる仕組みを確立

価格決定に関する商習慣の見直し

2024年度～

ベース価格の見直し

労務費のコストアップ分

物流費のコストアップ分

持続可能な販売価格の形成

進捗状況③：成長投資の実施(2024年度実績)

- 各事業の成長戦略に沿った成長投資を実施

鉄鋼事業

リサイクル事業の高度化

非鉄選別新ラインの増設

金属資源回収の
高度化・収益性向上



アルミホイール事業

高付加価値製品による競争力強化

塗装ラインの更新

品質向上・コスト低減



共通

自動化による生産性向上

- 予知予防保全システムの導入
- 外観検査工程における表面疵検知の自動化 他
- 工場スマート化による操業の見せる化

生産性向上、品質保証レベルの向上

共通

カーボンニュートラルの推進

オンサイトPPAモデル
太陽光発電の導入

環境付加価値の向上

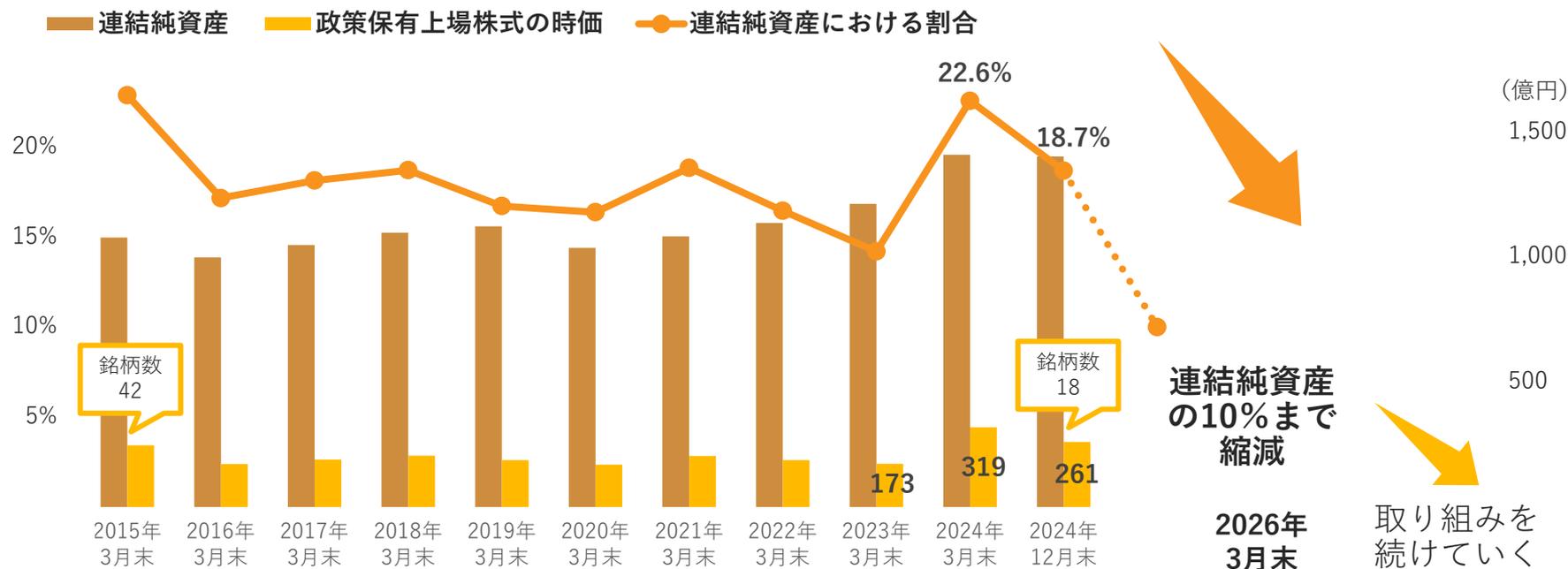


進捗状況④：政策保有株式の縮減目標の設定

- 資本効率の改善を推進するため政策保有株式の縮減目標を設定

縮減目標：2026年3月末までに政策保有株式を連結純資産の10%未満まで縮減

- 縮減を進め、連結純資産に対する比率は2024年3月末の**22.6%**から**18.7%まで低下**(2024年12月末現在)



- 獲得したキャッシュは資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて活用

事業ポートフォリオの最適化

成長投資

株主還元

を検討

進捗状況⑤：キャッシュ・コンバージョン・サイクル(CCC)の改善



- 売上債権の回収期間の短縮や棚卸資産の管理強化の実施により改善

売上債権

買入債務

棚卸資産

長すぎる回収サイトの適正化などにより
売上債権回収の早期化を実施

下請け事業者への支払いサイトを
60日へ短縮



棚卸資産の管理強化による適正在庫の維持

CCC
2021年度実績
90日

CCC
2024年度実績(想定)
82日

8日改善

進捗状況⑥：IR活動の強化

- 市場理解の醸成に向け、**個人投資家向けIRを強化**

個人株主向け
イベントへの
出展



東京会場の様子（2024年7月）



大阪会場の様子（2024年9月）

個人株主向け
説明会の実施
(初)

上場企業6社のプレゼン+質疑応答
**個人投資家向け
IRセミナー**

2024年12月14日(土)
11:00~17:00



Speakers: 佐藤 晋也氏 (エシエンテック), 三好 栄祐氏 (アース・エコー), 園部 洋氏 (第一興産), 藤原 博之氏 (東洋インダストリアル), 石井 博英氏 (トピー工業), 高木 信之氏 (東洋化学)

アーカイブ動画

https://finance.logmi.jp/ir_live/611

Logmi Finance トピー工業 (7231)

事業構成



2023年度売上高3,368億円



Two inset photos of speakers.

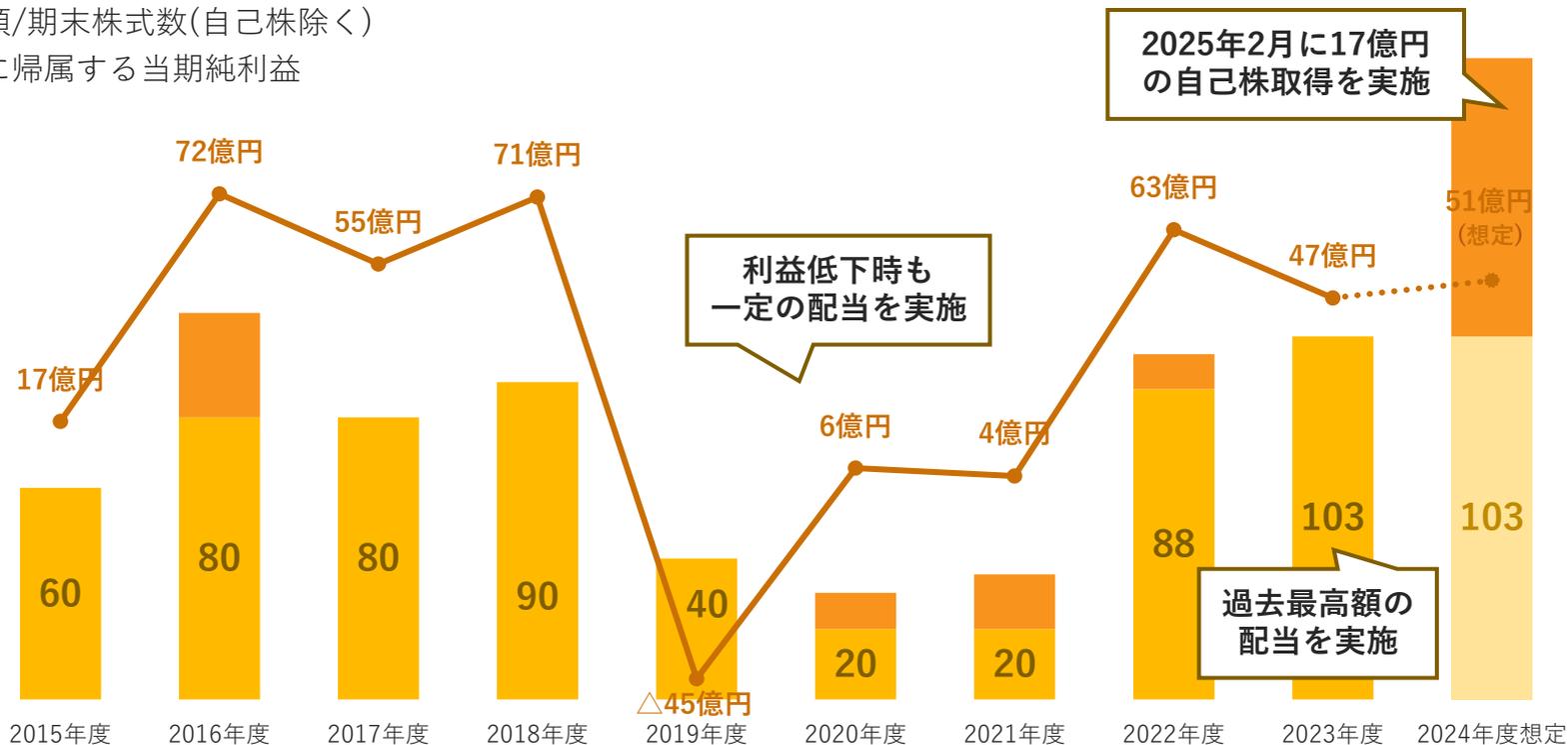
書き起こし記事

<https://finance.logmi.jp/articles/380900>

- 引き続きIR活動の強化を進め、株主資本コストの低減に向けて取り組んでいく

参考：株主還元の様況

- 一株あたり配当額
- 自己株取得額/期末株式数(自己株除く)
- 親会社株主に帰属する当期純利益



項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度想定
配当性向										
配当総額 / 親会社株主に帰属する当期純利益	83.6%	26.3%	34.2%	29.7%	—	81.0%	120.4%	31.8%	50.3%	44.6%
総還元性向										
配当総額 + 自己株取得額 / 親会社株主に帰属する当期純利益	—	35.8%	—	—	—	121.8%	211.0%	35.4%	—	78.8%

【株主還元の考え方】

配当性向の目安は、現預金の増減を伴わない一過性の損益を除いた親会社に帰属する当期純利益に対し **30～35%** とし、**安定的な配当継続にも十分な考慮**を払ったうえで剰余金の配当を決定